

# 総務文教委員会記録

令和3年11月8日（月）

10時00分～10時54分

全員協議会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長  
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員

【委員外】 小川議員、川上議員、牛尾議員

【議長団】

【総務文教委員会 所管管理職】

（教育委員会）岡田教育長、河上教育部長、草刈教育総務課長

【事務局】 下間書記

---

【議題】

1 執行部報告事項

（1）浜田市教育振興計画の策定について

【教育総務課】

（2）その他

2 その他

3 はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について

【Vol.62 9月号】（委員間で協議）

・報告〆切：12月14日（火）正午

4 今後の取組課題等について（委員間で協議）

## 【議事の経過】

〔 10 時 00 分 開議 〕

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名全員で定足数に達している。今回改選により総務文教委員会もこのとおり新しいメンバーとなった。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それではレジュメに沿って進める。資料については事前にタブレットに配信しており、委員は読み込んでいるので執行部報告事項については補足説明としている。答弁については簡素明瞭にお願いします。

## 1. 執行部報告事項

## (1) 浜田市教育振興計画の策定について

永見委員長

執行部から補足説明があるか。教育総務課長。

教育総務課長

内容については書いてあるとおりで、今回報告させていただく趣旨としては5番目の今後のスケジュールにもあるが、10月7日に第1回の教育振興計画審議会を開催し、そこで諮問させていただいた。11月17日に第2回審議会を予定している。第2回以降のところを実質的に中身の審議に入っていく予定にしている。3月までのところで策定する。

審議会委員は15名だが、会長は島根県立大学金野教授にお願いしている。副会長については社会教育委員の会の会長である富金原氏、この2人が選出された。

永見委員長

この件について委員から質疑はあるか。

芦谷委員

今日はスケジュールだけなので踏み込んだ質疑はやめるが、歴史文化保存展示施設の関係で、例の策定委員会の中では学校教育での歴史文化の教え込みといったことがあった。この原文の中にそういった、歴史文化保存展示施設の絡みがさらに踏み込んだ形になるのか。もしあれば考えを伺う。

教育総務課長

具体的な審議についてはこれからなので、その辺のところはこれから委員内で審議されて、答申案に反映させるかどうか検討されるものと考えている。

佐々木委員

1番の構成のところ少し意味合いが出ていると思うが、この教育振興計画を策定する目的を少し教えてもらえるか。

教育総務課長

浜田市総合振興計画及び浜田市の教育大綱が上位計画になるので、それは理念を示すような形になる。その実現を目指す、その施策の実施計画がこの教育振興計画ということになるので、より具体的な主要事業について記述し、それを達成するかどうかというところで、毎年度その確認をしていく形にしている。

佐々木委員

大綱や総合振興計画を見ながらでないと話ができないかもしれないが、教育全般広く捉えて計画をつくられると思うが、今一番、議会の中でも問題視されている案件、例えば学力あるいは、いじめ、その辺がより今後具体、特にいじめの問題については、私も個人一般質問で取り上げたし、学校で居場所をしっかりとつけてほしいというところ、学力が低下しないような、この辺のところを個人的には少し踏み込んだ計画にしていく必要があるし、そうしてもらいたい。

- 教育総務課長 先ほど具体的なことについては、これからという話だったが、その辺少し踏み込んでやっていただきたいがいかがか。
- 事務局のほうで、この方向でと強く言うと問題があるので、ご意見は踏まえて、そういうご意見をいただいたと委員に申し伝えるような形で審議会委員の皆に伝えたい。
- 大谷委員 同じような意見になるが、振興計画なので、計画となれば現状分析があって、その上で対策や手だてということになろうかと思う。先ほどから、学力の問題やいじめの問題など、あと最近ではタブレットを使っているSNSによるいじめということも出ている。現状を踏まえたものが出てくるものという認識でいるが、それでよろしいか。
- 教育総務課長 現状について把握し、その課題を取り上げ、それについてどういう形で目標を設定し、解決に向けてやっていくかということをお示しし、それを毎年度、自己点検評価報告書で検証という形で反映していきたい。
- 教育部長 議会のスケジュールにあるように1月の総務文教委員会で報告させてもらおうと思う。今回はとりあえず教育委員会としてこういったことを始めたという情報提供をすべきだろうと私から指示し、資料はあまりないのだが、こういうことをやるということを経済文教委員会には出すべきだろうということを出している。非常に簡単な資料になっており申しわけないが、議会にはできるだけ早く情報を流そうということで今回こういう形にしている。次回はもう少し資料を出させてもらおうと思う。その辺はご理解いただきたい。
- 永見委員長 ほかにないか。
- 西田委員 私も同じようなことなのだが、今、いじめや学力の問題があった。子どもたちを取り巻く教育環境全般、学校の現場もあるし家庭の環境もあるし、いろいろな現場の中で子どもたちの精神的な、心の育成なども含めて。SDGsの関係で、誰一人取り残さない、子どもたちもいろいろな環境で、ストレスのある子どもたちも多いし、いろいろな、取り残さないための、教育委員会として、学校現場として、責任のある、子どもたちを誰一人取り残さない、将来的に、きちんとした大人になってもらうための、まずはそういったところを含めて、大きく包み込んであげるような振興計画も含めて。要望はそんな感じになるが、そういうことを含めて策定していただきたい。
- 永見委員長 ほかにないか。
- ( 「なし」という声あり )

## (2) その他

- 永見委員長 もう1件口頭であるとのことなので、教育総務課長からお願いする。
- 教育総務課長 令和3年度の当初予算に計上していた三隅中学校の屋内運動場の天井落下防止対策工事について、今年度の11月から工期を設定して工事に入る予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により資材の調達に時間がかかることが判明した。当初、昨年設計段階では4か月程度でできるとのことだったが、資材調達の関係もあり、半年程度はかかるとのことである。
- 昨年に学校と日程調整もしていた関係上、この4か月をまた半年以上延ばすとなると、卒業式で使えないなどいろいろな支障が出てくるので、

財源の問題もあったので財政課と調整し、令和3年度に実施予定の工事を令和4年度に1年ずらし、工期がある程度の期間設定できるような状況にして工事に入りたいと、変更したいと考えている。

予算については、予算の組みかえ、次年度の調整がわかりやすいように、3月定例会議にて令和3年度予算を減額し、令和4年度当初予算にその工事関係予算が移るという形でお示ししたいと考えている。口頭ではあるが報告させていただく。

永見委員長  
佐々木委員

この件について委員から質疑はないか。

工期が1年ずれるとのことで、やむを得ない事情だと思うが、工期が遅くなるほど事業費が増額になるところが今までもあるので、その辺の事業費が、少しは増すのかもしれないがその辺の状況はどうなのか、わかれば教えてほしい。

教育総務課長

事業費は今年度想定した事業費の中で、もう1度同じ工期を見直して計算してもらったが、できると建築住宅課に確認が取れたので、そのような考えのもとに3月定例会議に提案させていただこうと考えている。

現在のところできると聞いている。ご心配も当然だと思う。再度の確認はしている。その辺のところ当初予算に向けて調整は、必要であればしたいが現状であればそのように聞いている。

佐々木委員

できるの意味合いが、いまいちわからないが、増額にならないということか。

教育部長

委員が心配されるように工期が延びると、これは天井の工事なので足場のリース料や現場管理費が一般的にはかかるので、その辺は少し精査させていただく。場合によっては増額で当初を出すこともあるかもしれないが、そこは、ご理解いただければと。資材とは特に木材が入らないということがあった。これだけはどうにもならないということで、三隅中学校には申しわけないが延長にさせてもらっている。

永見委員長

ほかにはないか。

( 「なし」という声あり )

それではここで、11月15日の全員協議会へ提出して説明すべきものを決定したい。執行部の意向を確認したい。総務課長。

総務課長

本日2点ほど報告させていただいたが、全員協議会で説明させていただく予定はない。

永見委員長

ただいま執行部から意向が示されたが、それでよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

それではそのように決定したのでよろしく願います。

## 2 その他

永見委員長

執行部から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

委員から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

それでは執行部は退席されて結構である。

《 執行部退席 》

### 3 はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について

永見委員長

これは11月4日付で対応協議について、議会広報広聴委員長から通知をいただいている。議会だよりの読者アンケートに寄せられた意見について、各担当委員会において議会としての対応を協議し、その協議経過、報告を、来年2月1日号の議会だよりに掲載するというもので、議会広報広聴委員会へ協議の結果報告の締め切りが12月14日となっている。総務文教委員会の担当分は3件ある。皆にまず意見を伺いたいがか。

1人ずつ意見を伺うのでよろしく願います。

最初に駅前の項目について願います。

佐々木委員

特に1番の問題については、はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）でも出ていた問題でもあるし、少し休憩の中で議論して、意見を出し合ったもののほうが言いやすいのかと思うが。どちらでもよいが。ストレートに最初からやってもよいが。これは微妙な問題なので。まあ、どちらでもよいが。

永見委員長

ただいま、休憩を挟んで懇談をしてという意見もあった。皆に諮らせていただきたい。いかがでしょうか。

では、暫時休憩を取らせていただく。よろしく願います。

再開については追って連絡させていただく。

[ 10時 20分 休憩 ]

[ 10時 23分 再開 ]

永見委員長

委員会を再開させていただく。皆にまずはご意見を伺いたい。大谷委員からよろしく願います。

大谷委員

駅前のにぎわいを取り戻したいというお気持ち、以前を知るものからすれば、お気持ちはよくわかるころではある。

ただ、状況は車社会になってきており、JRの駅を使う方々というのは車をお持ちでない方になってきているので、なかなか以前のような状況というのは、社会状況も変わってきている面で非常に難しい面も感じられるところである。例えば喫茶店や食事ができる場所というご指摘もあるが、周囲に全くないのであれば当然考えていかなければいけない状況でもあるが、周りには何件ものこういった施設があるので、こうしたことから行政が主動していくとなると慎重にしていかなければいけないことだろうと思っている。

芦谷委員

これを拝見すると、駅前やまちのにぎわいの切り口・入り口と、もう一つは高齢者の集う場所という記述がある。

今、まちづくりセンターができ、そこにはそういった各地区でできるのでそれはそれとして、駅前の一等地に一体どういうセンターがよいのか。交通の便のこともあるし、高齢者の方が出ていくというのが、本当にこの方がおっしゃるようなことで集う場所ができて本当によいものかよくわからない。したがって問題は駅前のその場所を一体どう位置づけるか。住民が集う場所をこの場所にするのか、ほかのそれぞれの各地区ごとにつくっていくのか。その点について少し研究したいと思っている。

肥後委員

この問題非常に難しいと私は個人的に思う。先ほど大谷委員がおっし

やったように、行政がかかわるべきものなのかというのは一つ疑問に思う。というのが、まず高齢者の方の発言だと思われるのだが、高齢者だけの意見を聞いて跡地を利活用してよろしいのか。若者の立場を少し考えると、今までよく聞いたのが、スケボーをすると警察を呼ばれるとか、野球やサッカーやバスケットをしたのだが車の人に怒鳴られるとか、近所の人にうるさいと言われるので、にぎわいの場を創出するのが駅前で果たして適正なのか。もしくはこの跡地が有効に活用できるのかは、もっと議論しないと答えが出せないと思う。

佐々木委員

コミュニティの場という趣旨については高齢者の方だけでなく、若者の方もそうだろうが、多くの市民が望んでいる、市に対する要請ではないかと思う。しかし今回、岩多屋の建物をということなので、民間の建物を活用することができるかどうか。その辺の大きなハードルもあるので、かといってほかの場所はどうも見当たりそうにないので、その民間の場所を活用するということに少し大きなハードルがあると思う。意味合い、内容としては非常に賛同するものである。場所がどうかということである。

西田委員

これはまちづくりのヒントがたくさんあるご意見だと思っている。この方の要望としては、たまたま駅前の岩多屋の建物についての空間ということで、それを新たにコミュニティの場所や喫茶、サロン、楽しい場所、高齢者が家に引きこもることがない健康的な、外出の機会が増える場所というたくさんのご意見があるので、これは下のほうの、行政がしきりにまちづくり、まちづくりと言う、まちづくりの観点。まちづくり拠点の観点。

下の二つの質問もすべて含めて、我々の今まで、旧三隅町と置きかえたら、私たちは地域の自治会単位で地区まちづくりの5年間のまちづくり計画をいつも立てている。5年ごとに地域でまちづくり計画書を地域の皆で集まってつくっている。その中で地域の課題は何かを出して、それをクリアするために自分たちで行政に要望することは何か、それとも自分たちでできることは何か、そういったことを含めて皆で協議する。これがまちづくりの原点の一つだと思っている。

そういった意味で、このご意見の中の、高齢者の方々やいろいろな、恐らく老若男女そうかもしれないが集まれる場所、おしゃべりができる場所、健康的になれる場所、そういったものを、その地域の中で、浜田のまちづくりの拠点の中でこの地域で何ができるのか、どういった施設があるのか、そういったことを地域の皆で話し合っ、その中で行政に要望できるものをきちんと整理されて、行政に要望される。個人の要望は、これは個人のご意見だと思うが、地域として、あるいはまちづくりセンター単位の要望として行政にしっかりと訴えられると、そのほうが行政としてもまちづくりはやりやすいと思った。岩多屋の建物がどうこうということはまだ先のことだとして、まずは考え方としては、地域のまちづくりの考え方としては、今言ったようなことだと思う。

三浦副委員長

駅前エリアというのは浜田でも中心市街地なので、まち全体を見ても重要なエリアだと思う。そうしたエリアの活性化は考えていけないと思っている。個別の建物の活用だけでなく。

それからこのご意見にある、場づくりの重要性だとか、サロン活動の重要性だとかいう部分は、大事なご指摘かと受けとめた。人が行きやすい場所、行ける場所でないと、そもそも活動しにくい。今の中山間地のサロン活動でも移動手段がなくて行けないとか、そういったご意見も伺っているところなので、そういった場づくりにはそうした観点をしっかり考えていかないといけないと、改めて思うところである。

あとは今の現況を見ながら、そうした駅前を活用やまちづくりの場づくりというのは、引き続き考えていきたい。

永見委員長  
肥後委員

2番目の項目についてのご意見を伺いたい。肥後委員からお願いします。

町内会長を惰性的に引き受けるとのことだが。これは私たちの地区でもそうだが、結局順番だとか、あの人はやってないとか、そういう個人的なことでやったり、もしくは、ほかの地域では何年も十年もやったりということを見聞きする。

町内会長を引き受けた方は、定期的に講習を受けて勉強してほしいと書いてあるのだが、こういったことは今までやってなかったのだろう。したがって任期が1年のところもあれば2年のところもあり、また再任を妨げないとうたってあれば、そのまま継続してされるところもある。そうなると町内単位で差がすごくあるので、講習というか勉強会というか、私としてもやっていければよいのではと思う。

佐々木委員

最初に、この内容を読んだときに、講習を受けてということに違和感を覚えた。町内会の規模、形も本当にさまざまであり、少人数のところも大人数のところもあるし、山間地・市街地といろいろな環境が違う状況にある。活発に町内会活動をされているところはよりよい町内を目指してこういう定期的な講習も望まれるところも多分あると思うし、いろいろな出前講座も恐らく呼んで開かれているところもあると思う。それを一律になるとなかなか難しいので、より町内会の活動を盛り上げる意味合いで、こういった講習や出前講座を希望される所を前向きに推進するという意味合いの程度ならよいと思うが、少ない町内の方々など、一律にというのは少し問題があると思う。

西田委員

結局は住んでいる市民一人一人の意識、気持ちの問題をいかに集めることがまちづくりにつながるのかと思う。一人一人がいろいろなことを思うのは、まちづくりではなく、まちづくりというのはその地域に住む人たちがある程度の人数で思いを一つにして同じ方向に向けていくことにつながっていく。その意識が大事だと思う。講習を受けるとか、勉強しなければいけないというものではなく、ふだんこの浜田で生活していて何気なく思っていることを皆が意見を持ち寄って、そういう意識を共有して、それをどう次につなげていくか、そういう市民の姿勢がまちづくりの方向だと思う。

大谷委員

町内会長の問題も出ているが、定年が60歳までであれば退職された方の中でお時間がある方に町内会長をやってもらえないかということができたと思うが、定年延長という社会情勢もあって、60代後半でもそれなりに仕事を持っている方々が私の周りにもたくさんおられる。お願いしようと思ってもまだ仕事をやっているということになるし、仕事を終えられた方も今度は、親の介護のこともあってとても地域のことまで手が

回らないということもあるので、なかなか枠をはめて講習などについては、地域の実情等もあったりしてなかなか難しいのではと感じている。しかし、人と人とのつながりについては、大切なことでもあるので、人とのつながりが持てるような事柄については、前向きに考えていかなければいけないことだろうと思っている。

芦谷委員

この文面は少し違和感もあるのだが、よく行政は人材育成やリーダー養成というのを盛んに言うが、100年たっても人材育成、リーダーができてないということだと思う。問題はスーパー町内会長を求めるのではなく、誰でもできるようなことにして、複数が参画して、できれば住民総参加で、その中で世話好き、世話役の人を見つけ出して、皆で協力するというでないとなかなか、町内会長に講習会に行ってもらっていただくという発想ではなく、とにかく皆が参加して皆で地域を育てる。そのためには町内会への参加、加入も低い。総参加していった中で人材あまたあるので発掘しながら、その中で、皆で合意づくりをする。そのような地域づくりの文化をつくっていく必要があると思っている。

三浦副委員長

ほかの委員からもお話があったように、各地域で環境や規模感がさまざまだと思う。同じ自治会長、同じ町内会長という肩書でも、役割がそれぞれ異なっているという中で、もちろんまちづくり委員会などがあるところはあるし。講習などの機会提供はできるものは積極的にしたらよいのではないかと思うが、その講習という形に捉われることなく、こうしたまちづくりの意識醸成については図っていく必要があると思っているので、そうしたご指摘を参考にしながら仕組みづくりを引き続き考えていくというお返事でいかがかと思う。

永見委員長

では3番目、最後の項目になるが、まちづくりセンターへの期待について、皆のご意見を伺いたい。大谷委員からお願いします。

大谷委員

まちづくりセンターについては、できたばかりといっても過言でない状況だと思うので、まだまだ定着、さらに発展させるにはご指摘のとおり時間が必要かと思う。これまでも各委員から出ていたように、地域や人と人とのつながり、意識にかかわってくるので、まちづくりセンターを中心にこうした意識が高まってくるように、人間の関係性が高まっていくような手だてを講じていただきながら、本来の目的に近づいていくように今後も取り組んでいくということではないかと思っている。

芦谷委員

鳴り物入りのまちづくりセンターである。自治区制度が終わり市の大きな方針転換である。問題はまちづくりセンターが、少し言葉を極めて言えば名ばかりで、本気でやるならセンター長も学校コーディネーターなどもしっかりした処遇をしながらその中でどんどん前に進めるということがないと。浜田市の場合はどうしても新しい施策分野は体制づくりが追いついていない。したがってここで思うのは、市の方針として、そこまでまちづくりセンターを機能させるのであればそれにふさわしい体制をつくっていく、市を挙げて協働のまちづくりを進める構えがないと、今のままでまちづくりセンターの人だけにその辺の責任やしわ寄せを押し付けてもなかなか機能しないと思っている。そういった面では市の方針が必要である。

肥後委員

先ほどおっしゃったようにまちづくりセンターはまだできたばかりで、私も1、2度行ったくらいのことだが、多くの市民が思われているのが、今までの公民館と何が違うのという話だと思う。浜田市で一生懸命考えられて、地域の拠点づくりとの方向性を示されているが、こちらの意見にあるように期待は全くしていないだの、まだまだ時間が必要というのは、今までの公民館の活動や内容等が個人の方の意見につながったのではないかと思う。したがって、そうはいつでも前向きにいろいろなイベントや催し物がしっかりできたり、また地域の皆の交流の場になるように私どもも含めて前向きに考えていかないといけないと思った。

佐々木委員

このご意見の最後に、社会教育に重点を置いてほしいという要望が出ているのだが、そうなるとこれまでの公民館の位置づけとあまりかわらないことになってくると思うので、この方が言われるのは、なかなかまちづくりセンターにかわるのは時間もかかると書いてあるが、あまり期待度は少ないのかと思う。しかしながら執行部は徐々に変えていきたい、まちづくりの拠点にしたいということを中心に大きくうたっているため、そのためにはコーディネーターも今後しっかり機能していただく必要があると思うが、重点を社会教育に置いてほしい要望もさることながら、まちづくりセンターに今後まちづくり拠点という意味合いは続けていただきたいと思うので、社会教育に重点も含めたまちづくりの拠点として機能するように、我々も努力したいというような回答になるのかと思う。

西田委員

私も社会教育に重点をといるそのお気持ちはよくわかる。ただこのまちづくりセンターも市内に26あるが、それぞれのセンターが地域性に応じた活動をしているので、いろいろな面で横のつながりは参考になると思う。そういった面ではほかのまちづくりセンターの活動状況等々をしっかりと、横のつながりで連携しながらいろいろな情報交換をされながら、進めていかれたらと思う。

三浦副委員長

この方のご指摘のように、目標とする形になるには時間も必要なのかと思う。そもそもまちづくりセンターに名前を変えて、そういったものを設置した役割がどういうものなのかを、市民にしっかりと伝える広報だとか、その場所の機能充実のための人材育成とか、必要に応じて予算充実など、そういった状況把握をしっかりとしながら、必要に応じて我々も提案する必要があるのだろうと思っている。

そもそも浜田市は社会教育という考え方を土台にしたまちづくりを推進していこうとたっているため、そうした考え方に基づいたまちづくりの、もっと実働にかかわる部分をこのまちづくりセンターがしっかりとサポートしていく、そういう意味合いだと僕は理解している。したがってそうした部分がまちにも期待されているし、足りない部分はしっかりと、先ほど申し上げたように状況把握しながら、あるときは指摘したり、サポートしたりしていきたいと、議会としてもかかわっていく必要があると思っている。

永見委員長

以上で、総務文教委員会に寄せられた問題については皆の意見を伺ったところである。

皆のご意見を踏まえ、正副で回答案を作成し、11月30日の総務文教委員会に提示したいと思うが、よろしいか。

( 「異議なし」という声あり )  
ではそのようにさせていただく。次の議題に移らせていただく。

#### 4 今後の取組課題等について

永見委員長

改選前、この委員会では、「子どもの可能性を育む幼児教育について」をテーマに調査研究を重ね、最終的に執行部への提言書を提出させていただいた。

島根県幼児教育センター職員を講師に迎えて勉強会をスタートし、保育園や幼稚園へのヒアリングや、幼稚園PTAとの意見交換会を行うなど精力的に活動したところである。

新しい委員会メンバーとなり、この委員会で所管事項のうち、今後特に何に力を入れて調査研究し、どのような取り組みを行っていくのか、皆のご意見を伺いたい。

次回委員会までに事前に各自でまとめていただき、11月30日の総務文教委員会にはそれを踏まえて、正副での検討案を提示する形で進めていきたいと思うがいかがか。

皆それぞれまとめていただいた意見を、締め切りを2週間後の11月22日月曜日までに、メールで議会事務局まで送付をお願いするということがよろしいか。

芦谷委員

確認だが、それは各委員が、こういうことをしてはどうかという思いや提案ということか。

永見委員長

はい。芦谷委員から言っていたように、前回も行ったがそのような形で一応皆から、どういう取り組みについてどういう思いで、ということ各自でまとめていただき、議会事務局へ送付をお願いしたい。

総務文教委員会フォルダに、前回の委員から提出してもらった取り組み課題の一覧を送付しているので、これをご参考にさせていただきたいがいかがか。

令和2年4月6日に総務文教委員会、前委員から送付いただいた一覧表をここへ提示させていただいている。このような形でお願いできればと考えているのだが、いかがか。

このデータについては今から、皆のタブレット等に送信させていただくのでお願いします。それでは皆そういう形でよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

ではそういう形で、各自でまとめていただき、11月22日までに議会事務局へメールで送信をお願いします。

それでは、次回の委員会は11月30日の予定である。以上で総務文教委員会を終了する。

[ 10 時 54 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 永見 利久 ㊟